

県育成カンキツ「白川」の適地性

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

研究のねらい

熊本県が育成した「白川」は、高糖系温州の代表種として産地化を推進している。

青島温州よりも、果実の外観がきれいで、果肉は柔軟、じょうのうも薄く、食味は良好である。さらに、熟期が早く、このため年内より完熟果実を出荷することができる。

しかし、立地や栽培条件が果実品質へ及ぼす影響が大きいことから、高品質果実生産のための適地性の検討を行った。

研究の成果

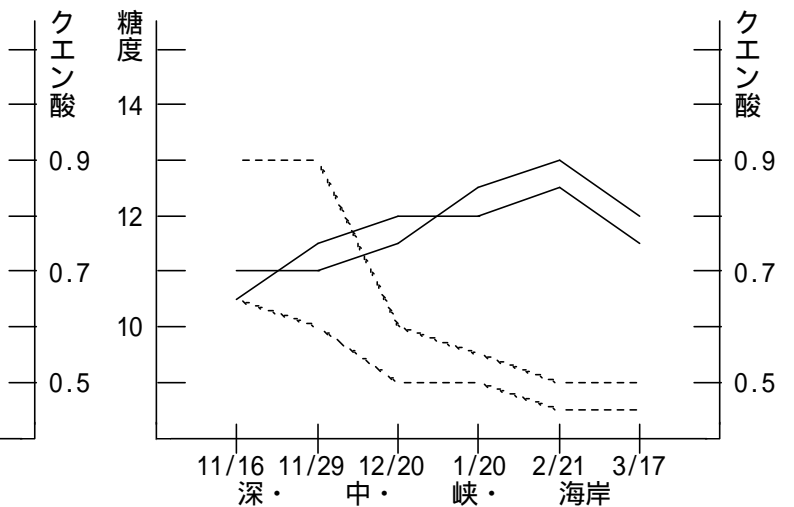
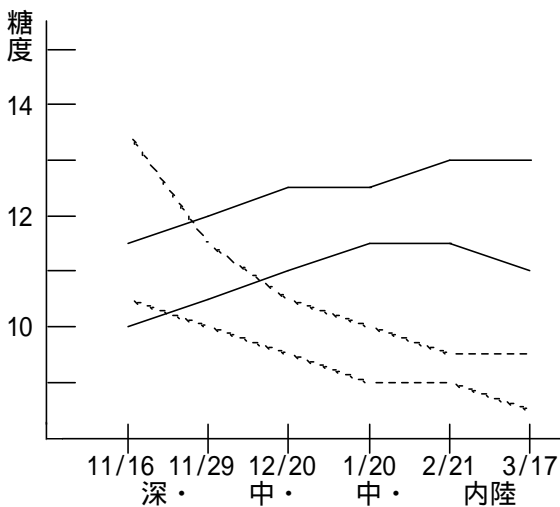
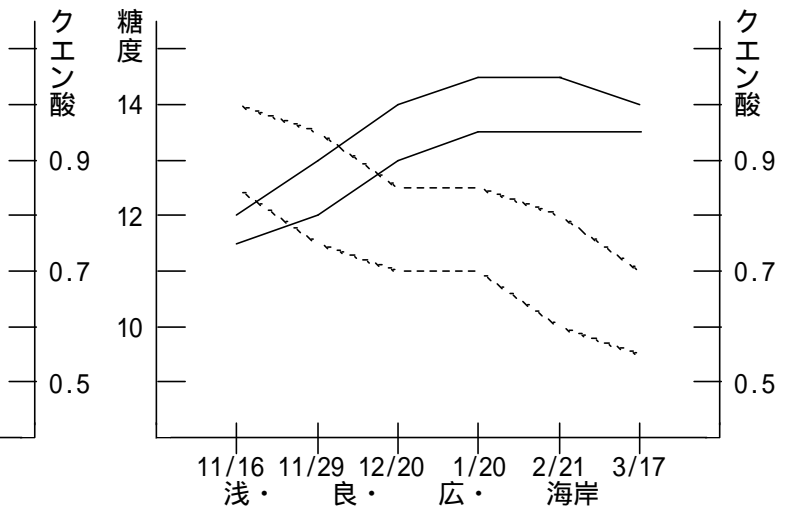
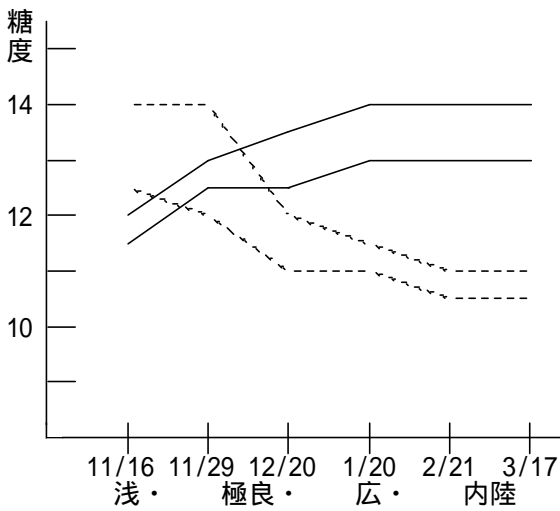
1. 土層が浅く、排水良好で樹冠距離の広い園では、海岸、内陸部ともに白川と青島温州の糖度の差が大きく、白川は高糖度を表す傾向にある。クエン酸は青島温州よりも白川が低く推移し、その差は海岸部で大きく、内陸部では小さい。
2. 土層が深く、排水が不十分で樹冠距離が中程度の園では、白川の糖度は、青島温州よりは高いが13度には達しにくい。さらに、樹冠距離の狭い園では、青島温州との品質差も小さく、高品質果実は得にくい。
3. 以上のことから、高品質果実生産のためには、排水良好で日当たりが良く、土層の深すぎない(50cm以下)場所を選ぶことが大切である。なお、定植する苗木は、細根の多い大苗を使用し、樹冠距離を十分に確保するとともに、マルチや薄切りにより排水や土壌乾燥に努める。



写真 白川の果実

グラフの説明

(糖)	白川	——
	青島	——
(酸)	白川	- - - -
	青島	- - - -



注：項目説明、(土層の深さ・ 排水・ 樹冠距離 海岸からの隔たり)

土層の深さ 深...60cm以上
浅...30cm程度

樹冠距離 広...1.0m以上
狭...0.5m以下

海岸からの隔たり 海岸...5km以内
内陸...25~45km

図 立地、圃地条件と果実品質(平成元年)

農業の新しい技術PDFファイル版(熊本県農業技術情報システム)